

2015年9月29日

各位

株式会社ジェネティックラボ

## 自己採取HPV（ヒトパピローマウイルス）併用検査開始のお知らせ

トランスジェニックグループの株式会社ジェネティックラボ（代表取締役社長：福永健司、北海道札幌市）は、2015年10月1日から自己採取HPV併用検査を開始いたしますので、お知らせいたします。

この検査は、子宮頸がんの早期発見を目的とする検査です。子宮の入り口付近にある子宮頸部（しきゅうけいぶ）にできるがんを、「子宮頸がん（しきゅうけいがん）」と呼んでいます。これは、女性であれば誰もがかかる可能性のある病気で、発症のピークは40～50歳代とされていますが、最近では20～30歳代で発症する方が急増しています。

子宮頸がんの発生には、その多くにHPV（Human Papillomavirus：ヒトパピローマウイルス）の感染が関係しています。HPVは、性交渉などによって感染する可能性があるごくありふれたウイルスで、100種類以上の種類（型）が存在します。その中でも、ハイリスク型といわれるHPVが子宮の粘膜に長期間持続感染することによって、子宮頸がんが発症するといわれています。特に16型と18型のHPVが、多くの子宮頸がん細胞から検出されています。従って、ハイリスク型HPV感染の有無を調べること（以下、「HPV検査」）は重要です。

子宮頸がんの検査は、以前から「細胞診」という検査でおこなわれています。婦人科医師が子宮頸部の細胞を専用のブラシなどで採取し、顕微鏡で異常な細胞を見つけ出す検査方法ですが、細胞診のみでの異常発見率は70～80%といわれています。この細胞診にHPV検査を加えた「HPV併用検査」をおこなうことで、発見率がほぼ100%にまで上昇します。HPV検査はハイリスク型HPV感染の有無を遺伝子レベルで見つけ出す検査です。

当社では、この併用検査を既に実施していますが、このたび受診者自身が採取（自己採取）した細胞でHPV併用検査を開始いたします。

従来、自己採取では、適切に異常な細胞が採取されない場合があり、陰性と判定されても、気付いた時には病変が進行してしまっているということも少なくありませんでした。

そこで、当社は医療機器製造販売を行っているアイエスケー株式会社（東京都文京区）と共同で、同社が医師採取同等、また、それ以上の検査結果を得ることを目標に開発したホームスミアセットプラス（以下、「同キット」）を用いて、医師が採取した場合と自己採取した場合の細胞診およびHPV検査における比較評価試験を実施しました。この結果、HPV検査における両者の一致率は96.5%、陽性率では医師採取で細胞診のみを行った場合に比べ、自己採取で行ったHPV検査の併用がより高い結果となり、同キットの有用性が認められると判断いたしました。

当社は、年間10万件を超える細胞診を受託し、またHPV検査においても10年以上の実績を持っています。このたびの自己採取HPV併用検査によって、忙しくて婦人科検診をなかなか受けることできない方や企業健康診断を受ける機会のないご家族の方、そして婦人科医が常駐せず医師による検診が困難な地域にお住まいの方を中心に、このサービスを提供し、地域医療に貢献してまいりたいと考えております。

【株式会社ジェネティックラボについて】

2000年、北海道大学発ベンチャー第一号として設立。常勤の病理医が在籍し、病理診断技術と分子生物学関連技術を駆使したサービスを展開。個別化医療の実現に向け、バイオマーカーの探索・評価技術の開発やコンパニオン診断薬等、医療に直結する製品・サービスの開発を支援します。従業員は、74名であります。

お問い合わせ先

株式会社ジェネティックラボ 社長室

〒060-0009 北海道札幌市中央区北9条西15丁目28-196 札幌ITフロントビル3F

TEL: 011-644-7301 FAX: 011-644-7611 <http://www.gene-lab.com/>